

世界を驚嘆させた近代日本の神業

超絶技巧の

七宝展

2025年

9月19日

金

12月21日

日



七宝草花鶏図花瓶
並河靖之
(明治時代中期～大正12年)



七宝僧侶図花瓶
河野由太郎(明治時代後期～大正時代)

七宝窓絵桜図花瓶
並河靖之
(明治時代中期～大正12年)



公益財団法人
横山美術館
Yokoyama Art Museum



〒461-0004 名古屋市東区葵 1-1-21 TEL.052-931-0006 FAX.052-931-0008
<https://www.yokoyama-art-museum.or.jp>

【開館時間】午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】毎週月曜日(祝・休日の場合開館、翌平日休館)

【入館料】一般1000円(800円)、高・大学生・シニア65歳以上800円(600円)、
中学生600円(400円)、小学生以下無料

*障がい者手帳をお持ちの方700円 * ()内は20名以上の団体料金

【後援】愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、あま市、名古屋市立小中学校PTA協議会

【協力】あま市 七宝焼アートヴィレッジ

超絶技巧の

七宝展



七宝桜翠図大花瓶
作者不詳
(明治時代中期～大正時代)



七宝菖蒲図大花瓶
作者不詳
(明治時代後期～大正時代)



七宝舞楽図大花瓶
安藤七宝店
(昭和時代中期)

七宝は、銅や銀といった金属などの素地に釉薬を融着させて制作し、鮮やかな色彩が七つの宝石に例えられる美しいやきもので、七宝焼とも称されます。紀元前のエジプトで始まったといわれ、日本へは古墳時代末期に伝わりました。江戸時代後期に尾張藩士の梶常吉が創出した尾張七宝は、明治時代以降の重要な輸出品として、湧き上がるような技術革新を引き起こします。それは従来の七宝が、くぼめた穴の部分に釉薬を施す「象嵌」であったのに対し、銀や金などの細い帯状の金属線を貼り付けた中に釉薬を盛り込む「有線七宝」や、その植線を用いずに釉薬でグラデーションを生み出す「無線七宝」など、近代七宝の極みともいふべき職人技の発展でした。尾張七宝の技法は各地に広まって帝室技芸員を誕生させた一方で、高度な技術を有しながらも、その名が知られずにいる名工たちの活躍もあったのです。

世界を驚嘆させた緻密な植線の生み出す繊細な美と、神業のような彩りが織りなす超絶技巧。明治時代から戦前の新規収蔵品を中心に、どうぞご覧ください。



七宝梅鳩図大花瓶
作者不詳(明治時代中期～後期)



七宝草花雀図花瓶
並河靖之(明治時代中期～大正12年)



七宝桜図花瓶(一対)
太田甚之栄(明治時代後期～大正時代)



磁胎七宝窓絵花蝶図花瓶
七宝会社 鈴木清一郎
(明治5年～20年頃)

*都合により、展示品は変更になることがあります。

関連イベント

講演会「現代に生きる 尾張七宝の伝統技法」

長年にわたって安藤七宝で制作に携わり、作家としても活躍された苦労と喜びについて、実演を交えながらお話いただきます。

◎講師: 森 三喜男 氏(元・日本工芸会 正会員)

◎日時: 2025年11月2日(日) 13:30～15:00

◎定員: 40名(要事前申込) ◎参加費: 無料(要入館料)

◎申込方法: 9月19日(金)よりお電話または

メール2017@yokoyama-art-museum.or.jpにて先着順(一般に先立ち、パスポート会員の先行受付あり)



ギャラリートーク

当館学芸員による作品解説

9月20日(土)、10月4日(土)、10月18日(土)、
11月1日(土)11月15日(土)、
12月6日(土)、12月20日(土)

◎場所: 美術館展示室

◎時間: 13:30より1時間程度

*事前申込不要、要入館料



年間パスポート会員募集中!
年会費4,000円(更新3,000円)

*各イベントの詳細につきましてはお問い合わせください。

公益財団法人
横山美術館
Yokoyama Art Museum

〒461-0004 名古屋市東区葵 1-1-21
TEL.052-931-0006 FAX.052-931-0008
<https://www.yokoyama-art-museum.or.jp>

【交通のご案内】

名古屋市営地下鉄東山線
「新栄町」駅(1番出口) 徒歩 4分
名古屋市営地下鉄桜通線
「高岳」駅(3番出口) 徒歩 4分
*専用の駐車場はございません。お車でのご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。



次回企画展

時と美を託す 「陶板」展(仮題)

2026年1月23日(金)～
2026年5月10日(日)

100円割引
有効期限2023年12月31日
他館利用不可